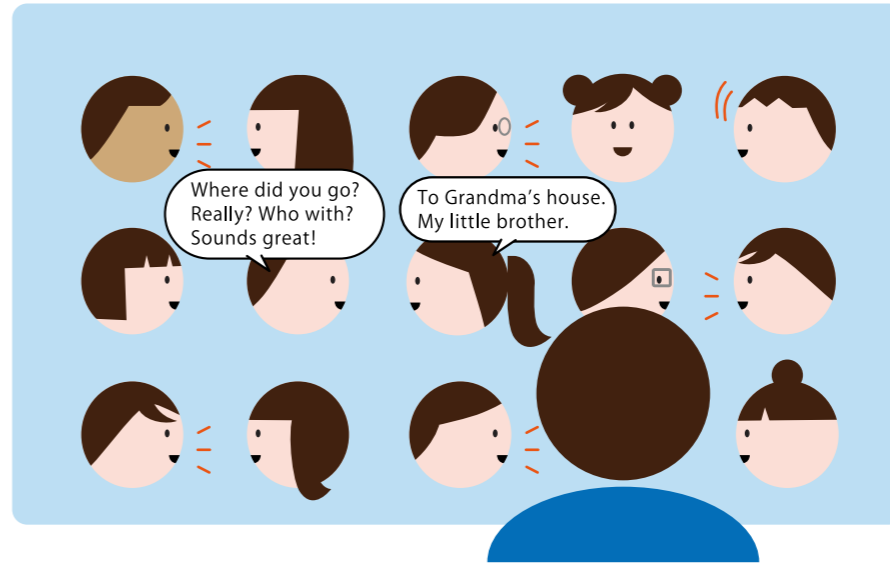


English Richな授業づくり

学校で生徒が英語4技能を身につけていくためには、授業を「英語を使う場」にすることが大切です。そのために基本となるのは、まず教師が授業で英語を使うこと、そして、教師が話す英語の量と質に留意し、English Richな授業を行うことです。English Richな授業では、教室で生徒が英語を使い、コミュニケーション活動が活発に行われます。そして、生徒のモチベーションだけでなく、英語力も高めます。



English Rich を 成立させるための テクニック

ここでは代表的なテクニックをご紹介します。

生徒の理解に合わせた英語使用

生徒の言語習得レベルや使用状況などに配慮して、教師が生徒の理解に最適な英語を選択・調節する。

指示の理解確認のための質問 (ICQs*)

言語活動などの指示について生徒の理解度を確認するために、簡潔で効果的な質問を行う。*instruction checking questions

インフォメーション・ギャップ

言語活動をする際、興味・関心・経験の違いや相手が知らない情報を伝え合う。

自分ごと化・自己関連性

意欲をもって意見や気持ち、経験などを表現する活動に取り組めるように、生徒にとって必然性や関連性を高める工夫をする。

段階別の指示

生徒がスムーズに理解できるように、段階を経た簡潔で効果的な指示をするように配慮する。

状況や場面の設定

言語活動を行う際に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確に設定する。

日本語の効果的な活用

教室での主たる使用言語は英語という原則のもと、効果的な場合には日本語を使用する。

